

# SGH研究開発の 概要と成果

平成27年度指定  
大阪府立能勢高等学校



—国際協力の現場で判断力と実践力を培うグローバル人材研究—



目標

現状を理解しグローバルな見識を持って判断できる生徒の育成

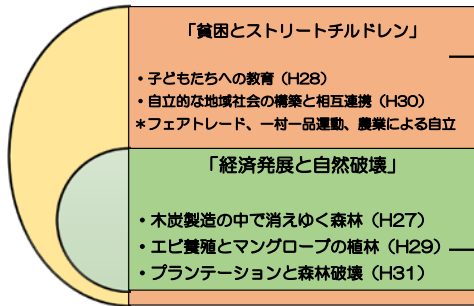
地域課題に直面し国際協力の手法を活用し実践できる生徒の育成

グローバルな視点を持って地域で協働できる生徒の育成

グローバルな現場で能勢町や能勢高校を語る生徒の育成

総合学科 連携型中高一貫教育校 ユネスコスクール

課題研究のテーマ (SGH重点分野講座)

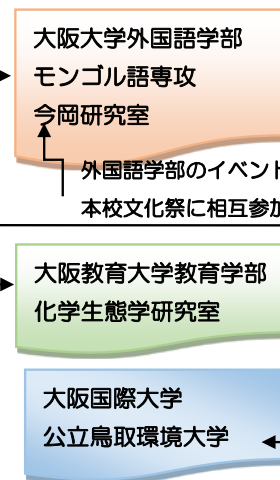


国際交流の経験・関係を活かした研究開発  
農業教育の研さんを活かした研究開発  
地域の課題解決にもつながる研究開発

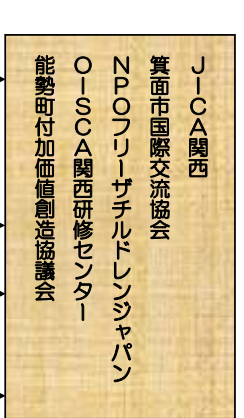
海外での実態調査 支援機関・大学等との連携



国内の大学との連携



国内の機関との連携



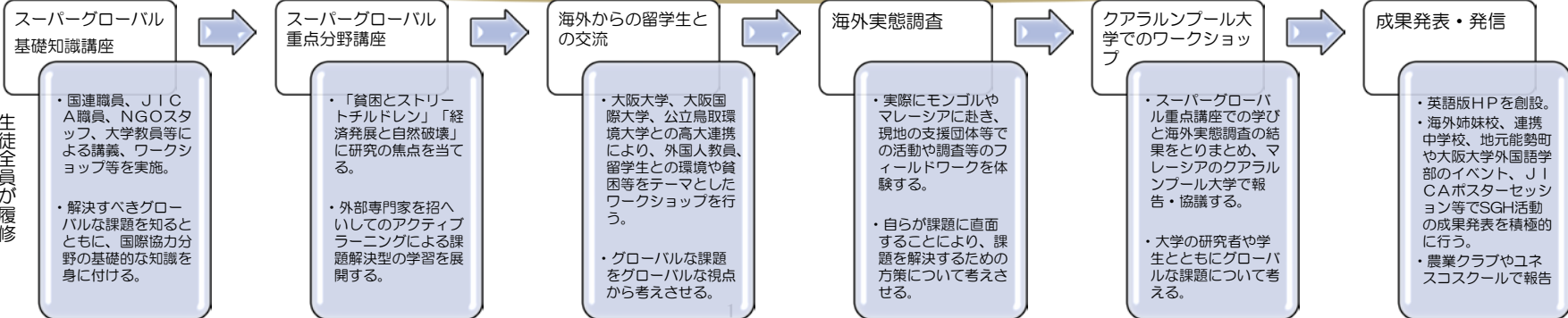
海外からの留学生との交流

1年次：産業社会と人間 農業と環境  
2年次：総合的な学習の時間

2年次：(学) スーパーグローバルスタディ (選択)

研究開発のカリキュラム概要

生徒全員が履修



# 1) 構想概要

# 「目標」

現状を理解しグローバルな見識を持って判断できる生徒の育成

地域課題に直面し国際協力の手法を活用し実践できる生徒の育成

—国際協力の現場で判断力と実践力を培うグローバル人材研究—

グローバルな視点を持って地域で協働できる生徒の育成

グローバルな現場で能勢町や能勢高校を語れる生徒の育成

# 1) 構想概要 「課題研究テーマ」

## 「貧困とストリートチルドレン」

- 子どもたちへの教育 (H28)
- 自立的な地域社会の構築と相互連携 (H30)



### モンゴル

ウランバートル  
企業・支援施設等での調査FW

## 「経済発展と自然破壊」

- 木炭製造の中で消えゆく森林 (H27)
- エビ養殖とマングローブの植林 (H29)
- プランテーションと森林破壊 (R 1)



### マレーシア

ベラ州 サバ州  
企業・植林地等での調査FW

# 2) 研究開発・実践

## ① 教育課程表や時間割上の工夫

- ・産業社会と人間（1年次）
- ・総合的な学習の時間（2・3年次）
- ・各教科

スーパーグローバル  
基礎知識講座

- ・国連職員、JICA職員、NGOスタッフ、大学教員等による講義、ワークショップ等を実施。
- ・解決すべきグローバルな課題を知るとともに、国際協力分野の基礎的な知識を身に付ける。
- ・年度末に研究成果発表を行う

生徒全員が履修

- ・学校設定科目  
スーパーグローバルスタディ（2年次）

スーパーグローバル  
重点分野講座

- ・「貧困とストリートチルドレン」「経済発展と自然破壊」に研究の焦点を当てる。
- ・外部専門家を招へいしてのアクティブラーニングによる課題解決型の学習を展開する。
- ・放課後、土曜日に実習、フィールドワークを実施
- ・校内外での研究発表の機会を設定

選択生徒が履修

## 2) 研究開発・実践

### ② 学校設定科目の設定・運用について

平成29年度、2学年の生徒を対象に

学校設定科目として

「スーパーグローバルスタディ(SGS)

(2単位)」を開設

## 2) 研究開発・実践

### ③教科間の連携と異なる教科の教員の関わり

(全生徒対象)

- ・ 総合的な学習の時間に複数教科による合同講座を実施  
例：講演会「ボルネオ熱帯雨林の生態系と経済活動」  
**理科＋地歴＋農業**
- ・ 年度末に発表会を開きその成果を確認・共有  
**指導はテーマに関連した教科で実施**

## 2) 研究開発・実践

### ④各教科の授業におけるSGHの意識

(全生徒対象)

●論理的に考えそれを表現する力

国語

英語

●データを活用し筋道を立てて整理する力

数学

情報

●グローバルな視点で課題を把握する力

地歴

理科

家庭

農業



## 2) 研究開発・実践

### ⑤ 課題研究の指導・工夫(全生徒対象) (校内での成果の共有方法、評価方法)

- 課題研究を全生徒に課し、年度末に課題研究発表会(グループ発表)を実施。
- 各教科の教員が評価
  - 優秀課題研究(上位3組)を表彰
  - 課題研究(抜粋)を報告書に掲載

## 2) 研究開発・実践

海外実態調査  
国内実態調査

- ・マレーシア  
ペラ州 (H27)  
サラワク州(H29)
- ・モンゴル  
ウランバートル  
(H28,H30)
- ・気仙沼市  
陸前高田市  
大槌町 (H29)
- ・鳥取市  
境港市 (H30)

クアラルンプール  
大学・モンゴル国  
立大学でのワーク  
ショップ

- マレーシア
  - ・クアラルンプール  
大学
  - ・マラ日本工業学院
  - ・国立プトラ  
マレーシア大学
  - ・スウィンバーン大学
- モンゴル
  - ・モンゴル国立大学
  - ・ラジブ・ガンジー生  
産芸術カレッジ

海外からの留学生  
との交流

- 能勢高校への留学生
- マレーシア
  - ・マラ公団の高校生
  - ・国立プトラ  
マレーシア大学生
  - ・アスタ高校生
  - ・オイスカマレーシア  
高校生
- 韓国
  - ・東亜マイスター高校  
生

成果発表・発信

- ・海外姉妹校、連携中  
学校、地元能勢町や連  
携大学や団体のイベン  
ト等にて積極的に成果  
発表を行う
- ・中間、最終発表会を  
行う
- ・HPに活動を掲載する
- ・英語版HPを創る
- ・遠隔ネットシステム  
を利用し、遠隔地の高  
校と交流する

## 2) 研究開発・実践

### ⑥ 課題研究の成果とエビデンス

- ・全生徒への「SGHアンケート」
- ・SG重点分野講座受講者への「自己変容アンケート」
- ・卒業生の進路希望や実績の変化
- ・英語検定試験の受験者数の増加と合格数

## 2) 研究開発・実践

### ⑦海外研修等について

- ・モンゴル海外実態調査

平成28年度、30年度実施

- ・マレーシア海外実態調査

(平成27年度、29年度、令和元年度実施)

- ・ドイツ海外調査

(令和元年度実施 **SGH後継事業として**)

## 2) 研究開発・実践

### ⑧特徴的な取組等

- ・「グローバル」な視点と地元との結び付き

地元伝統産業や文化の伝承

- ・大学教師による継続的な授業・指導

年間を通しての指導・助言

- ・遠隔授業システム(NTT)による研究成果の普及

他県のSGH校との継続的交流

# 3) 高大連携

## (1) 国内の大学との連携

- 大阪大学(大学訪問、講師派遣・講義)
- 大阪教育大学(講師派遣・講義)
- 大阪市立大学(大学訪問、講師派遣・講義)
- 大阪府立大学(講師派遣・講義・WS)
- 関西学院大学(講師派遣・講義・WS)
- 公立鳥取環境大学(大学訪問、講座に参加)
- 大阪国際大学(英語実地講座・WS)
- 北陸大学(講師派遣・講義・WS)

# 3) 高大連携

## (2) 国外の大学との連携

- 国立プトラマレーシア大学(訪問・課題研究)
- クアラルンプール大学(訪問・課題研究)
- スウィーンバーン大学(訪問・課題研究)
- モンゴル国立大学(訪問・課題研究)
- モンゴル ラジブ・ガンジー生産芸術カレッジ(訪問・課題研究)
- 国立モンゴル教育大学(情報交換・課題研究)
- モンゴル科学アカデミー(課題研究)

## 4) 管理機関としての取組

### ① 英語教育支援

ネイティブ教員を配置し、英語教育を支援

### ② 連携大学による生徒の伸長の検証

関西学院大学による「SGH生徒の成長の検証及びグローバル人材としての資質の検証」の調査研究を実施

### ③ 運営指導委員会の開催

### ④ 成果の普及還元

### ⑤ 指導助言



# 5) 成果課題・成果普及について

2,3年SG重点分野講座受講生徒が以下で発表、普及活動を実施

- 全国SGH研究発表会、SGH甲子園
- 大阪大学、大阪府立大学、大阪国際大学、公立鳥取環境大学
- 宮崎県立飯野高校、島根県立隠岐島前高校、  
大阪府立豊中高校
- **【マレーシア】**国立プトラマレーシア大学、クアラルンプール大学、スウィーンバーン大学、アスタ高校(姉妹校)、オイスカマレーシア高校、**【韓国】**東亜マイスター高校、**【モンゴル】**モンゴル国立大学、モンゴル ラジブ・ガンジー生産芸術カレッジ、トルゴイト地域づくりセンター、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン モンゴル事務所

# 5) 成果課題・成果普及について

## ⑥ 課題研究の成果

- 能勢町議会で発表し高い評価を受けた。その助言、評価を課題研究に活かすことができた
- 能勢町及び近隣地域(豊能町)でのピースマーケット・とよのまつり・能勢町文化フェスティバル、能勢小中高PTA交流会、豊能町立吉川中学校授業、などでの発表。地域でグローバルな取組の啓発となった。
- 第13回大阪府高等学校総合学科教育研究大会、箕面市国際交流協会(モンゴルひつじフェア)、在大阪モンゴル国総領事館(モンゴルまつり)、などで発表。他地域、他団体への広報活動となった。

# 大阪府立能勢高校の改変について

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
3 年 次 生	大阪府立能勢高校 SGH指定対象生徒				
2 年 次 生					
1 年 次 生					

平成30年度より「大阪府立豊中高校能勢分校」に移行

# 大阪府立能勢高校の改変について

	平成30年度	令和元年度
3年次生	大阪府立能勢高校 SGH指定対象生徒	
2年次生		
1年次生	大阪府立豊中高校能勢分校 SGH指定対象外生徒	

## ・平成30年度

3、2年次生

SGH事業

1年次生

SGH後継事業スタート

## ・令和元年度

3年次生

SGH事業

1、2年次生

SGH後継事業を継続、発展

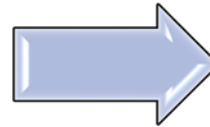
# 6) 後継事業(今後)について

- 産業社会と人間 (1年次)
- 総合的な学習の時間 (2・3年次)
- 各教科

グローバルスタディ(GS)  
課題探究基礎講座

- 国連職員、JICA職員、NGOスタッフ、大学教員等による講義、ワークショップ等を実施。
- 解決すべきグローバルな課題を知るとともに、国際協力分野の基礎的な知識を身に付ける。
- 年度末に研究成果発表を行う。

生徒全員が履修



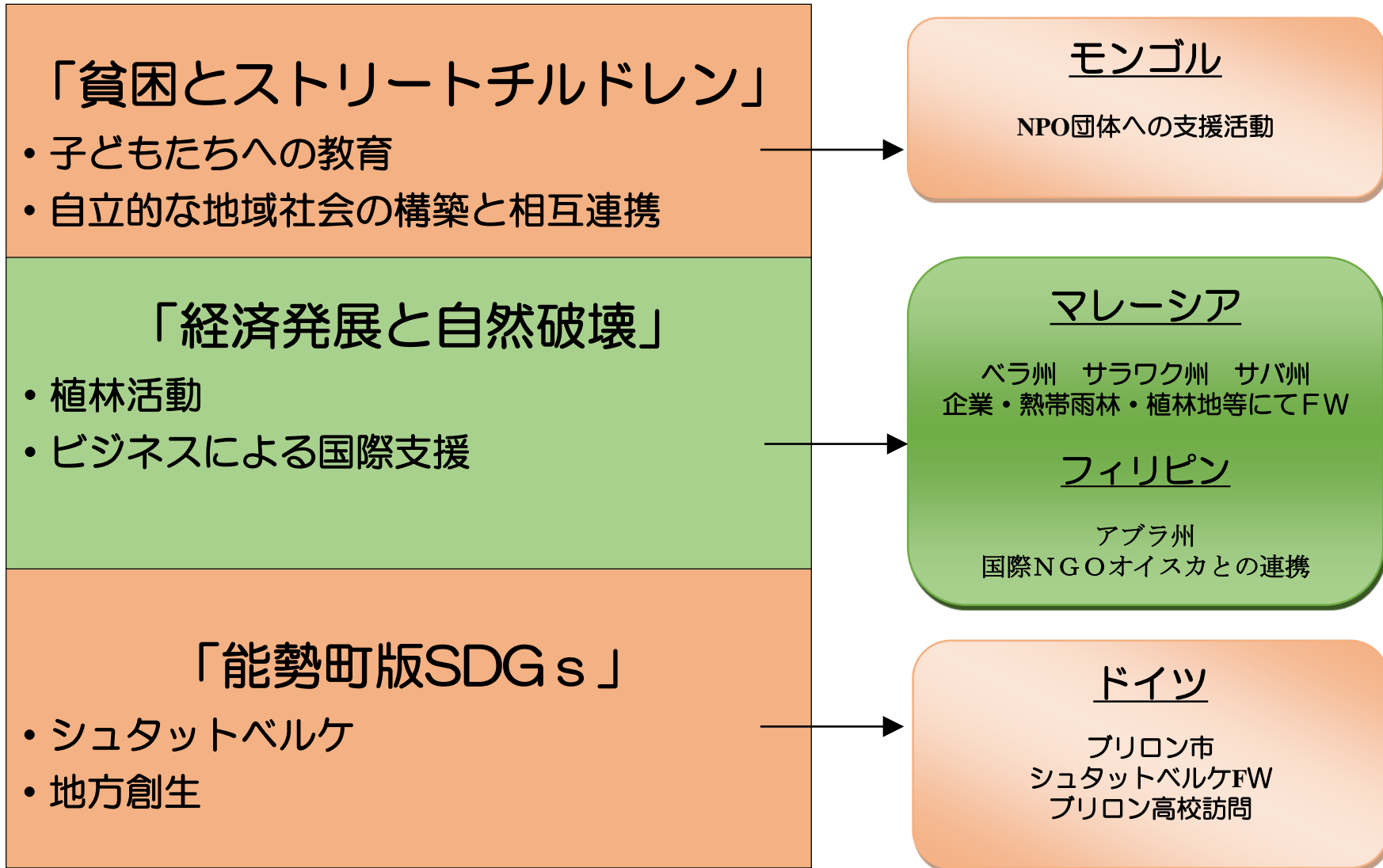
- 学校設定科目  
プレ課題探究GS  
(2年次)

GS課題探究重点講座

- 「経済発展と自然破壊」「地方創生」に研究の焦点を当てる。
- 外部専門家を招へいしてアクティブラーニングによる課題解決型の学習を展開する。
- 放課後、土曜日に実習、フィールドワークを実施。
- 校内外での研究発表の機会を設定。

選択生徒が履修

# 6) 後継事業 課題研究テーマ



# 6) 事業の継続(今後)について

## ①マレーシア ボルネオでの課題研究

### ◇熱帯雨林と環境保全

- ・オイルパーム  
プランテーション
- ・持続可能な生産とは



# 6) 事業の継続(今後)について

## ②フィリピン アブラ州での課題研究

### ◇環境保全活動



- ・植林活動
- ・ビジネス国際支援

マングローブ林の保全活動



## 6) 事業の継続(今後)について

### ③ドイツ 「シュタットベルケ」の課題研究

- ・ドイツ ブリロン市  
と能勢町の連携
- ・ブリロン高校との  
交流、課題研究



シュタットベルケ(自治体公社)＝「電気・ガス、交通、上下水道、廃棄物、インターネットなど、あらゆる生活関連インフラ・サービスを提供する公益企業」